



～日本のイノベーションシステムを変革～

TIA連携大学院サマー・オープン・フェスティバル2026

第14回TIAナノグリーン・サマースクール 参加者の募集について

筑波大学大学院数理物質科学研究群は、人材育成活動の一環として、
第14回TIAナノグリーン・サマースクールを開催いたします。
多数の皆様のご参加をお待ちしております。

- 目的概要** 次世代を担う、我が国のナノグリーン若手人材の育成
グリーンイノベーションにおける特定のトピックについて、基礎的内容から最先端の研究の詳細まで幅広く情報を収集できる機会です。世界で活躍する第一線の大学教員及び研究者を講師に招き、講義を行います。また、異分野の学生や企業との交流の機会を設けています。対面講義のスタイルで実施します。
- 期間** 2026年8月26日(水)～8月28日(金) ※詳細はP.3 日程表をご覧ください。
- 方法** 対面講義（筑波大学総合研究棟B棟110室で開催）
- 担当教員** 桑原 純平、山岸 洋（筑波大学）
- 講師** 坂田 修身（JASRI）、雨宮 健太（KEK）、則包 恭央（AIST）、齋 均（AIST）、安田 弘之（AIST）、竹口 雅樹（NIMS）、安田 剛（NIMS）、松尾 豊（名大）
※詳細はP.4講義概要・講師一覧をご覧ください。
- 対象者** ナノグリーンに興味を持つ大学院生及び社会人
※所属大学指導教員等の推薦書があれば、大学4年生、高専専攻科2年生の参加を認めます。
- 募集人数** 最大30名程度（原則として全日参加できる方）
- 選考方法** 書類選考（応募多数の場合は大学院生を優先します。）
※申し込み後、参加の可否を連絡します。
- 受講料** 無料
- 主催** 筑波大学大学院 数理物質科学研究群
筑波大学 エネルギー物質科学研究センター（TREMS）
- 共催** 物質・材料研究機構

お申し込みについて

TIA連携大学院ホームページ(tia-edu.jp)内のTIA連携大学院サマー・オープン・フェスティバル2026特設サイトをご覧ください。次、次のメールアドレスへお申し込みください。tia-edu@un.tsukuba.ac.jp

申し込み締切:2026年7月30日(木)

※ただし、筑波大学以外の学生で単位を希望する方については2026年7月10日(金)までに依頼文書送付が必要
次ページのスケジュールを参照して下さい。

単位の修得について

筑波大学以外の大学院生(修士)

本サマースクールは筑波大学（大学院博士前期課程）の授業科目（1単位）としても位置づけられており、希望する大学院生は所属大学および本学の双方からの許可を得ることで、特別聴講学生として本授業科目を履修することもできます。参加決定の連絡があった大学院生で希望する方は、TIA連携大学院HPを参照の上、別途手続きを行ってください。

筑波大学の大学院生(修士)

参加決定の連絡があった筑波大学の大学院生で単位修得を希望する学生については、TWINSにおける履修申請を行ってください。

【科目番号：0AJJA37】

【授業科目名：ナノグリーン特別講義Ⅰ】

申し込み～最終日までのスケジュール

日 程	事 項
7月30日	申し込み締め切り ※ただし他大学の学生で単位を希望する方は下記の特別聴講学生に係る依頼文書の送付期限に間に合うようにお申し込み下さい。
7月10日	特別聴講学生に係る所属大学から本学宛て依頼文書の送付期限（筑波大学以外の大学院生（修士）のみ）
～8月7日	参加可否通知メールを事務局から送付します。参加決定者には、次の案内も併せて送付しますので、それぞれの締め切り日までに提出してください。 ※学内生・特別聴講学生は、manabaを使って受講いただきます。 ① アブストラクト（プレゼンテーションセッション用）：A4版1枚。指定フォーマットにて各自の研究テーマで作成 ② 特別聴講学生に関する手続き書類（筑波大学以外の大学院生（修士）のみ） ③ TWINS履修申請の案内（筑波大学大学院生のみ）
8月17日	TWINSの履修申請入力期限（筑波大学大学院生のみ）
8月27日	当日各自対面プレゼンテーションを行っていただきます。（発表時間等は別途連絡） ※研究発表内容については、サマースクールにて公開しますので、必ず指導教員等の許可を得てください。
8月28日	◇レポート提出締め切り及び課題については、manabaで発表します。A4版2枚程度で作成すること。 ◇修了式にて、サマースクールを修了した方には修了証を授与します。また、参加学生の中から、プレゼンテーション及びレポートの成績が優秀な学生には、奨励賞を授与します。

お問い合わせ先(事務局)

国立大学法人 筑波大学 TIA推進室
tia-edu@un.tsukuba.ac.jp Tel. 029-853-4028, 5891

<https://tia-edu.jp>

■日程表 ※プログラム内容は都合により変更になることがあります。予めご了承ください。

第1日 8月26日（水）対面講義またはオンライン講義						
時間			13:00 - 13:10		13:10-14:40	14:50-16:20
内容			始業式		高輝度放射光による 材料解析	量子ビームを用いた 固体表面における 化学反応の観察
講師					坂田修身 高輝度光科学研究センター	雨宮健太 高エネルギー加速器 研究機構
休憩						
第2日 8月27日（木）対面講義またはオンライン講義						
時間	9:00-10:30		10:40-12:10		13:10-14:40	14:50-17:00(予定)
内容	光刺激に応答する 物質・材料	休憩	太陽電池技術の基礎、 現状とこれから ～シリコン太陽電池から ペロブスカイト/シリコン タンデム太陽電池へ	昼食	ナノカーボン材料の 機能化と有機太陽電池の開 発	ナノグリーン プレゼンテーション セッション
講師	則包恭央 産業技術総合研究所		齋 均 産業技術総合研究所		松尾 豊 名古屋大学	
休憩						
第3日 8月28日（金）対面講義またはオンライン講義						
時間	9:00-10:30		10:40-12:10		13:10-14:40	14:40- 14:50
内容	電子顕微鏡入門 (基礎から最新その場 観察技術まで)	休憩	アモルファス有機半導体 の基礎物性 ～有機ELを 中心として～	昼食	ナノ空間を反応場 とする化学変換	修了式
講師	竹口雅樹 物質・材料研究機構		安田 剛 物質・材料研究機構		安田弘之 産業技術総合研究所	

■講義概要・講師一覧

※プログラム内容は都合により変更になることがあります。予めご了承ください。

講義名	講師名	所属	講義概要
高輝度放射光による材料解析	坂田 修身	高輝度光科学研究センター	高輝度放射光X線は材料解析に広く使われているが、合金ナノ触媒とGaN半導体ウエハを例に取り上げ、結晶性の評価や電子状態の解析の実際を紹介する。特に、測定や解析を少し工夫するだけで、新しい情報を得られることをお伝えしたい。
量子ビームを用いた固体表面における化学反応の観察	雨宮 健太	高エネルギー加速器研究機構	前半は、放射光をはじめとする量子ビームの特徴を紹介した後に、化学種の同定や定量的な観察に威力を発揮する、X線吸収分光法の基礎・原理を解説する。後半は、主にX線吸収分光法を用いた表面化学反応観察の最前線について、より実際の反応に近い条件下での反応観察を目指した、最近の進展を含めて紹介する。放射光や量子ビームの使用経験が無くても理解できる平易な内容である。
光刺激に応答する物質・材料	則包 恭央	産業技術総合研究所	光エネルギーを化学反応に利用することにより、材料の様々な物性を変化させることが可能である。特に可逆的な光反応を利用することで繰り返し利用可能な材料への応用が期待されている。講義では、光刺激に応答する仕組みについて、分子レベルの変化と結晶、液晶、高分子などの材料物性との関係を解説するとともに、近年のトピックスを紹介する。特に光反応を利用した相転移材料、接着材料、光エネルギー貯蔵材料、光で動く材料等について紹介する。
太陽電池技術の基礎、現状とこれから ～シリコン太陽電池からペロブスカイト／シリコンタンデム太陽電池へ	齋 均	産業技術総合研究所	現状の太陽光発電の主力である結晶シリコン太陽電池を題材に、太陽電池の基礎や最新動向について紹介する。さらに、結晶シリコンのその先の将来技術として注目され、活発な研究が進められているペロブスカイト／シリコンタンデム太陽電池について最近の研究を紹介しながら概説する。
ナノカーボン材料の機能化と有機太陽電池の開発	松尾 豊	名古屋大学	有機半導体の物性について解説し、物性測定のやり方について解説する。また、有機系太陽電池について、用いる材料の特徴、発電メカニズム、太陽電池特性の評価法、その歴史から最近の研究のトレンドまで解説する。
ナノグリーンプレゼンテーションセッション	桑原 純平 山岸 洋	筑波大学	ナノグリーン分野(太陽電池、燃料電池、触媒などのエネルギー変換デバイス)において研究内容のプレゼンテーションを基に、新規技術を討議し、将来技術の開拓を試みる。
電子顕微鏡入門(基礎から最新その場観察技術まで)	竹口 雅樹	物質・材料研究機構	透過型電子顕微鏡(TEM)の基礎・原理と最先端TEM手法および近年急速に発展しているTEMその場観察技術を紹介する。TEMの使用経験が無くても理解できる平易な内容である。
アモルファス有機半導体の基礎物性 ～有機ELを中心として～	安田 剛	物質・材料研究機構	社会実装が進んでいる高効率有機ELを構成するアモルファス有機半導体薄膜を題材に、薄膜への電荷注入から、電荷移動、励起子生成、励起子移動など、デバイス動作原理を支える素過程を中心に解説する。これらは有機ELに限らず、他の有機薄膜デバイスを理解するための基礎知識にもつながる内容である。
ナノ空間を反応場とする化学変換	安田 弘之	産業技術総合研究所	触媒か身の回りの様々な物質、製品の製造やエネルギー・環境問題の解決に幅広く利用されていることを学ぶとともに、後半はナノクリーンの観点から、ナノスケールで構造を精密制御した触媒を用いた環境に優しいクリーンな化学合成について、最近の事例を紹介しながら解説する。